

インフルエンザ流行入り

施設内感染を防ぐため、咳・鼻水・微熱・のどの痛みなど風邪症状のある方、関節などふしぶしに痛みを感じる方の面会を禁じます。

インフル流行入り

鹿児島県は20日、今季のインフルエンザの流行が始まったと発表した。第37週

県内

(9~15日)の県内92定点医療機関当たりの患者報告数が1・04人と、流行開始の目安である1人を超え

た。同週までに目安を超えたのは統計を取り始めた1999年以降、2009年、12年に続き3回目。

18年は11月30日に流行入りしており、今年は約2カ月早い。また37週に報告された96人のうち、9歳までが51人と過半数を占めている

昨年より2カ月早く

る。17日には鹿児島市の小学校で今季初の学級閉鎖があり、20日までに特別支援学校の学年閉鎖も報告されている。

県小児科医学会の南武嗣会長(鹿児島市・みなみクリニックス院長)は例年より早く流行入りしたことについて、「東南アジアなどの熱帯・亜熱帯地域でも年間を通じて流行することがある」と説明。「寒くて乾燥

した時期に流行する考えがちだが、暑く湿気がある夏にも感染すると認識してほしい」と注意を促した。また、10月から供給が始まるワクチンについては「6歳未満の未就学児に発症予防効果が高い、という報告もある」と話し「手洗い、消毒の徹底に加え、前倒しでの予防接種を検討し」と呼び掛けた。

と説明。「寒くて乾燥した時期に流行する考えがちだが、暑く湿気がある夏にも感染すると認識してほしい」と注意を促した。また、10月から供給が始まるワクチンについては「6歳未満の未就学児に発症予防効果が高い、という報告もある」と話し「手洗い、消毒の徹底に加え、前倒しでの予防接種を検討し」と呼び掛けた。

(中元聡史)